

文化財調査報告書

# 大東町の遺跡 IV

—久野—

1992年3月

島根県  
大東町教育委員会

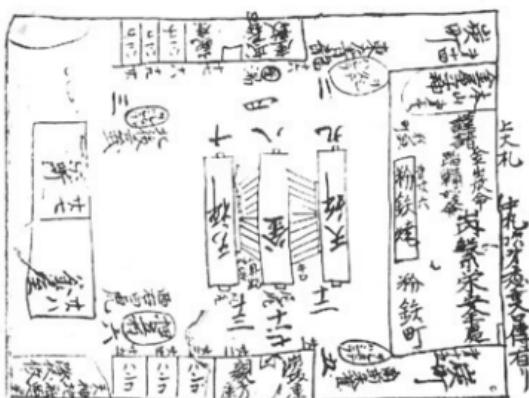


(明治三十七年撮影)

大林製鐵所全景



現況



高殿内配置図(一八〇〇年)」ろ

## 例　　言

1. 本書は大東町教育委員会が、平成3年度国・県の補助を受けて行った大東町久野地区遺跡の発掘(試掘)調査並びに分布調査の概要報告である。

2. 調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 大東町教育委員会 教育長 野々村安生 (後任) 小川喜義

調査指導 丹羽野裕 (島根県教育庁文化課主事)

蓮岡法暉 (島根県文化財保護指導委員)

調査者 杉原清一 藤原友子

事務局 別所武夫 松田勉 狩野弘 岩本史紀 景山修二

3. 発掘調査は範囲と性格の確認を目的として、大石原古墓及び段たら跡とについて発掘を行い、併せて地区内遺跡の分布について行った。

4. 調査成果は分布図及び一覧表とし、さらに個別にカードを作製して向後の活用に備えた。なお、遺跡番号は過年度調査に準じた。また、発掘調査については地元に対し見学会も行った。

5. 収録した遺跡のうちには既に消滅したものも含む。また古墓は主として石塔に着目して調査を行った。

6. 分布調査は踏査による地表の表微観察によるもので、埋蔵文化財のすべてが網羅し得たとはいえない。

7. これらの調査にあたっては、明治22年編成の「字切地図」(大東町行政文書)による小字地名(本書に収録)、及び地域誌『久野のあし音』や口碑伝承等も参考とした。

また、次の方々から情報や資料の提供、又は現地案内等の協力を得た。記して謝意を表します。

久野地区各自治会 久野公民館 景山政胸 椿 武明 落合茂重

内川 宏 福間 俊 渡部寛藏 山本孝義 岩田明信 藤原栄一

大東町税務課 農林土木課

8. 発掘調査に関する理学的年代測定については、島根大学理学部伊藤晴明教授、同時枝克安助教授の労を煩わした。

9. 本書に用いた地図は上として大東町農林土木課所管に関わる5千分の1地形図であり、原則として上方を真北とする。

10. 本書の編集・執筆は調査者が行った。

## 目 次

とびら写真	大林製鉄所（明治37年）
高殿岡	（八幡宮代官家文書）
久野地区遺跡分布図	2
久野地区遺跡一覧表	5
I. 遺跡の分布概要	7
1. 大字下久野	7
2. 大字上久野	7
II. 発掘調査の概要	8
1. 大石原古墓	8
2. 段たら跡	9
III. 主な遺跡	11
1. 繩文・弥生時代	11
2. 古墳・奈良時代	11
3. 中世の城砦など	13
4. 製鉄関係	17
5. その他	20
小字地名一覧表	20
付編 段たら跡の地磁気年代について	(時枝克安・伊藤晴明) 23
図版	25

遺跡数一覧表

※( )内は既知遺跡数

大字	散布地	古墳・横穴	城砦	古墓	生産遺跡	その他	計
上久野			2(1)	2	9(1)	1	14(2)
下久野	3	3	4	1	14(1)		25(1)
計	3	3	6(1)	3	23(2)	1	39(3)

# 大東町管内図

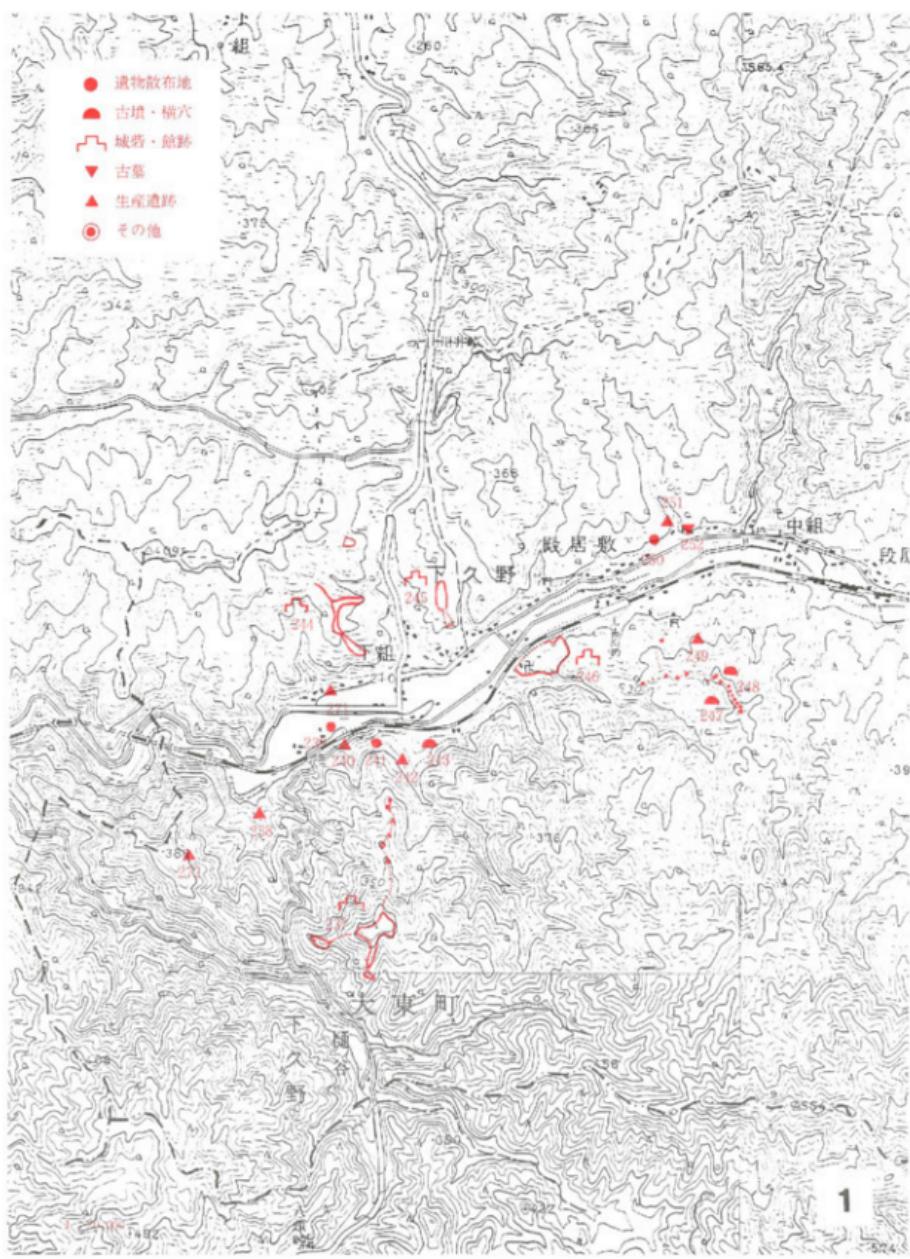
松江市

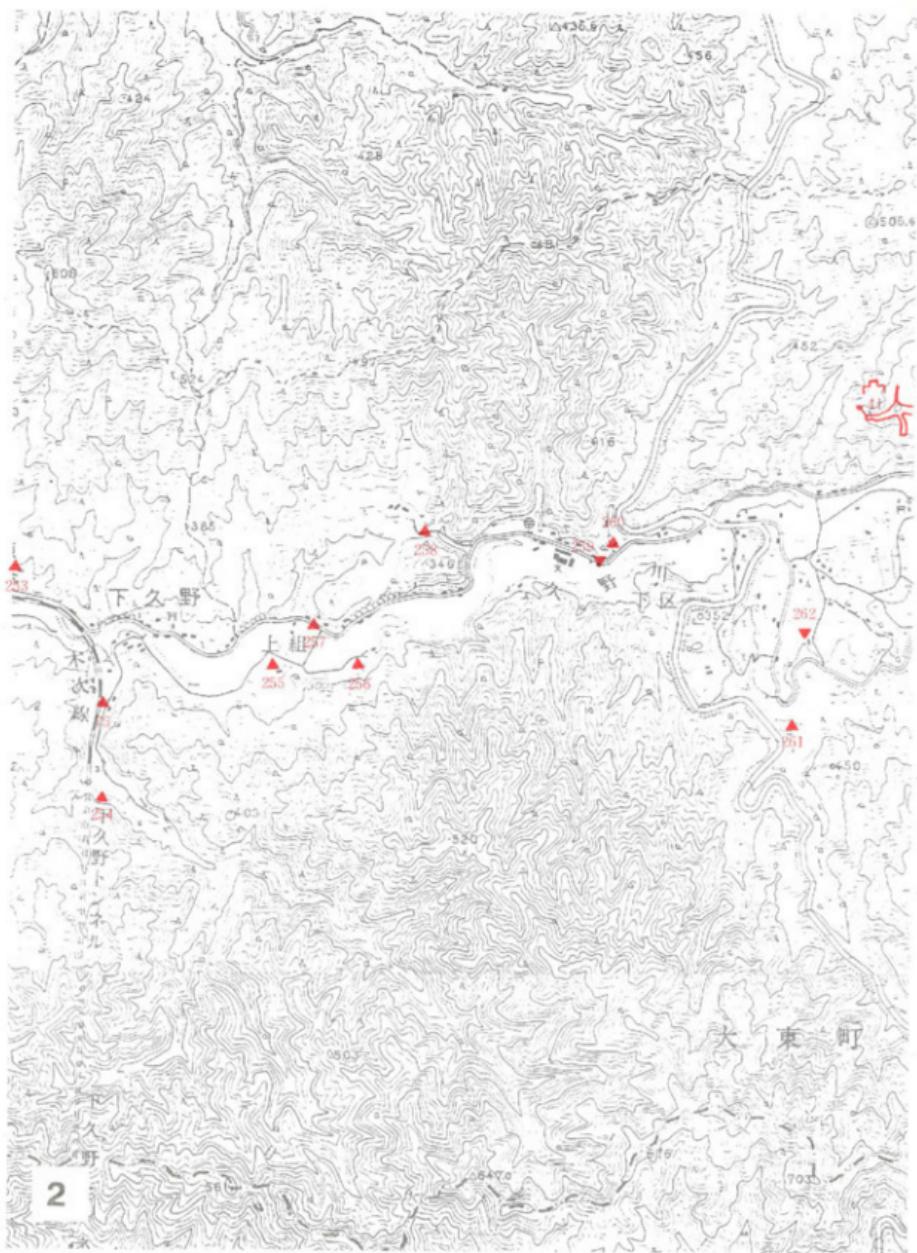


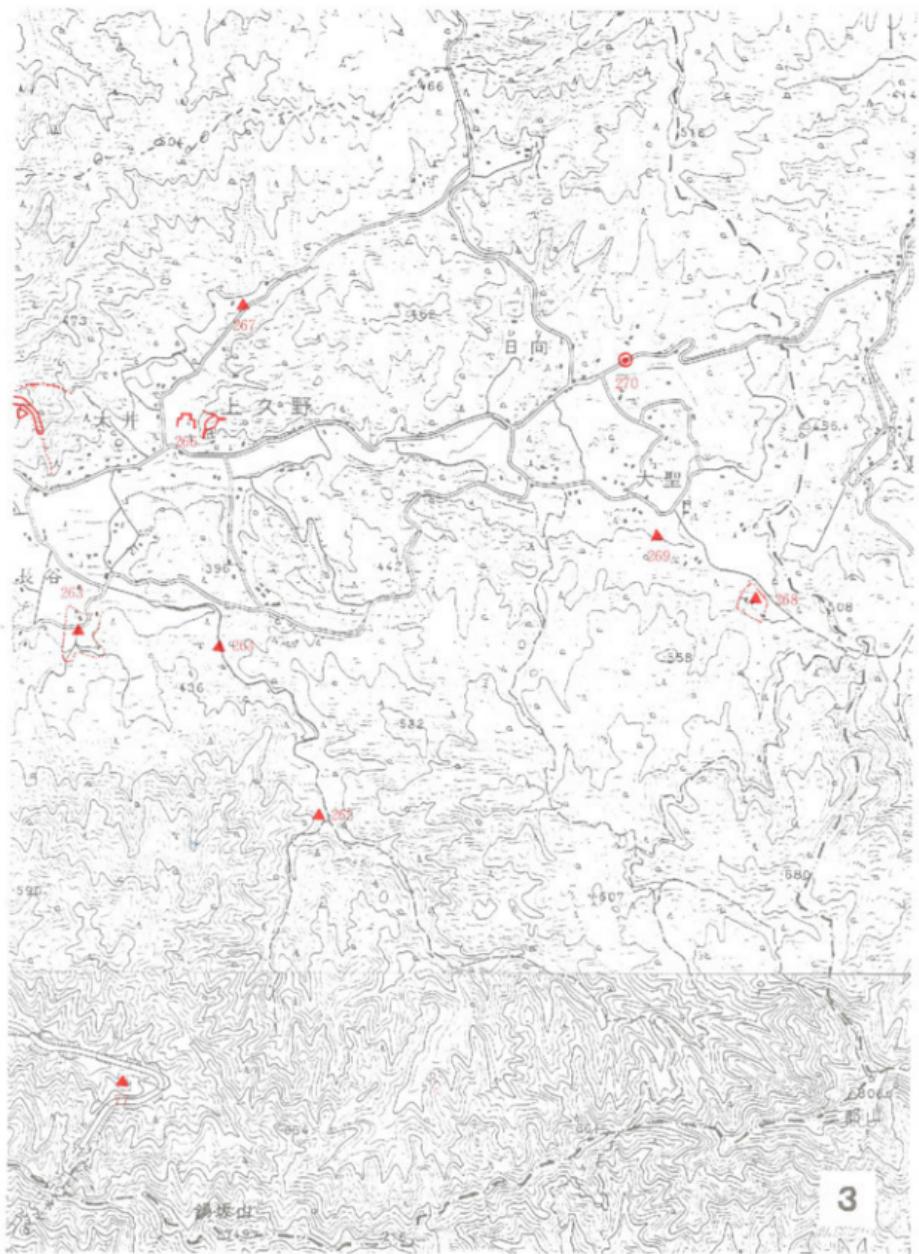
位置図



0 2km







## 遺跡一覧表

大字上久野

番号	種別	名 称	所在地(字)	現況	概 况
41	城 眺	生山城跡	生山・鎌倉谷・権 現山	山 林	494mの山頂から四方への尾根上に郭30、堀切8、整堀3、 井戸跡あり 岩頭多し 久野氏の居城と伝う 南麓に開 墾地名多し
266	タ	寺山砦跡	寺山	山 林	生山城跡に対応する丘陵上 郭3、切岸など、物見であろうか
259	古 墓	大石原古墓	大石原	畑	試掘調査 葛石集積2か所五輪塔片もあり 基壇状配石1
				原 野	付近の畠地は墓地跡、近世の墓
262	タ	乗越の五輪塔	乗越	墓 地	現行墓地に残欠あり 付近の寺跡(消滅)から移したもの 付近採取と思われる複文石器もあり
77	生産遺跡	大槻たら跡	大槻	山 林	山奥の谷あい平地 鉄洋多く地蔵尊あり 近世の高殿たら
260	タ	高橋たら跡	高橋	畑	谷川に面して鉄洋多く堆積 上方平野面に施結構一部残存 炉床瓦礫か
261	タ	成林たら跡	成林	畑	谷川に張り出た台地上 炉床部は破損か 斜面に鉄洋多 し 近世たら
263	タ	長谷たら跡	鍊床・長谷鍊床 上鍊治屋	水田・畑 道路・ 墓 地	広い台地上 鉄洋広く散在、炉床も複数かいざれも位置不明 鍊場整備と道路で地形大きく改変 付近に鍊冶地名あり 墓地群あり 文化年中盛行 經営石原氏?
264	タ	長谷・奥原たら跡	奥原	山 林	頂路で通構中心部は消滅 崖南に焼土断面3m 鉄洋散布
265	タ	長谷・鉄屎塚たら ら跡	鉄屎塚	・	白奥谷川のはとり 小舟端の一部落差 近世の高殿たら 石原氏経営か
267	タ	神ノ前たら跡	神ノ前	畑	鉄洋散在 鍊場・道路でほとんど消滅 が標材にスサ混入か
268	タ	大林製鉄所跡	大林	畑・水田	M19~T7操業の近代たら 保存良好 囲連建物も一部 現存 審査資料等もあり
269	タ	廻ノ上製鉄跡	廻ノ上	畑	山麓緩斜面 川寄り部分に鍊冶跡、山寄り部分にたら跡 野たらか
270	番 所 跡	上久野番所跡	大田口番所	畑・雜	広瀬藩領との界に近い通路沿い 大部分演滅

## 大字下久野

239	遺物散布地	下梶原遺跡	下梶原	水田	小河岸段丘 鋼場工事で土器出土 付近に鍛冶跡もか
241	タ	段遺跡	段	畑	台地上 剣中より上師器出土 近くに印塔片もあり
250	タ	大台遺跡	大台	水田	谷川沿いの水田あたりか 水害時に土器(土製支脚)採取 現況は遺場整備後
243	古	墳	寺谷戸古墳	寺谷戸	畑 封土なく横穴式石室崩れて露呈 門柱石のある横穴 石室 出土品不明
248	古	墳	八幡奥古墳群	殿ノ奥	山林 谷奥支線線上に17基以上列をなす 南斜面の横穴(247)に伴うものか
247	横	穴	八幡奥横穴群	殿ノ奥	タ 谷奥の山腹 1穴開口5~6基落込みあり 他に多数並ぶか 遺物不明 横上の古墳群(248)はこれに伴うマウンドか
237	城	砦	高丸城跡		タ 416mの山頂付近 郡10 畠切6 竪塁3他 仁多への備えか
244	タ	中垣内上堀跡	中垣内、椿垣内	タ	支尾根上に梯郭20 川井崎からの路に対するか
245	タ	戸屋ヶ崎砦跡	戸屋ヶ崎	タ	丘頂付近3郭残存 中垣内上堀に対応する物見 大山標現する
246	居館跡	殿居敷館跡	殿居敷	畑	低丘陵台地 削平地3段で広大 大きい堀切りあり 久野氏とも馬田氏とも伝う
252	古	墓	森の五輪塔	森	原野 丘麓に1基あり 由来不明 高71cm 近世初期か
75	生産遺跡	丹谷たたら跡	丹谷	木田・畑・池	江戸後期から明治初年までの高殿跡 石原氏経営
238	タ	柄坂たたら跡	柄坂	原野	遺構不明 細かい鉄滓散布 野だらか
240	タ	叶原製鉄跡	叶原・下梶原前・他	山林・池	遺構破損か たたら・鍛冶など 複数の遺跡
242	タ	段たたら跡	段	旧畑地	試掘調査 小舟構造あり やや小形の高殿か 近世
249	タ	才ヶ市炭窯跡	才ヶ市	山林	丘陵上方 挿抜き式穴窯 推定長11m 煙穴3か所か 前庭に炭灰層あり
251	タ	叶谷たたら跡	叶谷	畑	狭い谷の入口付近鉄滓散布 野だらか 稲土下焼土面あり
253	タ	鋤窯たたら跡	鋤窯	畑・池	丘麓台地上 宅地付近斜面に鉄滓散布多し 近畿たらか
254	タ	小井谷たたら跡	小井谷	田	丘麓高所の削平地 鉄滓散布多し 付近に墓地群あり
				原野	近世後期か
255	タ	一ノ瀬たたら跡	一ノ瀬	畑	緩斜台地 鉄滓散布 位置不詳 年代不明
256	タ	櫻木原鍛冶跡	櫻木原	竹林・畑	鍛冶製場跡か 石垣の平坦面2か所あり 大鍛冶鉄滓散布
257	タ	中鍛野だら群	中鍛	畑	丘麓緩斜面 畑崎土下に焼土面複数あり 一帯に鉄滓散布 が壁材にスナ入りを認む 中世か
258	タ	速目野だら跡	速目	山林	道端崖面に鉄滓層あり 上方平坦面に焼土面を認む
271	タ	叶垣たたら跡	叶垣	畑	鉄滓散布 スエ器片も採取
272	タ	畠ヶ平炭窯跡	畠ヶ平	山林	挿抜き式穴窯

## I. 遺跡の分布概要

久野地区は能義郡・仁多郡と大原郡の界である三郡山を源とする久野川の最上流部で、南北両面を高い山々に挟まれており、大字上久野と下久野に分かれ、古代の久野地区は阿用郷に属した。『出雲国風土記』には仁多郡への通路として「辛谷村」の地名があり、大字下久野地内に比定されている。しかし、現在では下久野地内に「ヒノタニ」地名はみられない。

ともあれ久野地区は古くから仁多方面及び能義郡奥部への路筋でもあり、これが鉄の道として活かされ、近世に降ると製鉄の盛行した地域である。このように町内でも趣を異にする地区である。

### 1. 大字下久野

わずかに数点採取された上器（段・大台・下梶屋遺跡）や後期古墳（寺谷尻古墳）・横穴群（八幡奥横穴群）などから、遺跡は古墳時代まで遡ることができる。横穴群を除けば概ね久野川両岸の山麓台地にあり、そこが生活の場と思われる。

中世後半には交通の要に備えた山城や砦（高丸・中垣内上など）が尾根上に築かれ、集落中心部を見渡す高台（殿居敷）には居館が営まれた。

近世では大小規模のたらち鐵の跡が全域にわたって点在し、一部には中世かと思われる所（中鐵）もある。これらと関連する炭窯では事例の稀な横穴様式の穴窯がある。

### 2. 大字上久野

この地区内は近世一近代に盛行した鉄穴流しと近年行われた農地開発により地形が大きく改変されたところが多く、古い遺跡はほとんど見当らない。しかし、乗越地内で縄文時代の礪器1点が古く採取されていた。出土地点は明確ではないが、付近の鉄穴流しによって発見されたと思われるもので、低く張り出す支尾根上又は高い台地上には約4000年以前の古くから人の営みの跡をわずかに窺うことができる。このうち中世の城跡まで遺跡は明らかでない。

生山の山頂を中心とする城跡は、南東麓の居住区域と共に室町期の典型的な山城の様相が判る事例である。これに伴う中世の古墓も散在すると思われるがほとんど見当らない。

この上久野地区は特に製鉄遺跡が顕著であり、近世から近代まで9例を数えたがさらに山奥部においては今後発見される可能性が大きい。小字地名からみると鉄穴の区域も広いことが判る。

このほか松江藩の界にあたり番所跡も知られている。

## II. 発掘調査の概要

### 1. 大石原古墓

**立地と環境：**上久野字大石原にあるこの古墓は、久野川の大きく迂曲する地点に北から張り出す狭い丘陵の突端にあり、古くから墓石等が集積して塚状としたところであった。また直下を県道安来本次線が通っており、丘陵先端部はこの道路の前方に残っている。ここには下方の旧道から石段が昇って現道脇の馬頭観音碑に達している。しかしそれから古墓までの間は切断されており旧状は知ることができない。

古墳の位置は直下の県道から約6m高く、隣接する畠(7×10m)とほぼ同一削平面である。そしてここは将来、道路改良等の可能性があるところであり、この畠地部分について隣接墓地との関連や時代相などを知るため発掘調査(試掘)を行うこととした。

**遺構の概要：**畠地部分に設けた幅1mのトレンチ調査では、耕作土を除くと等高線に並行して、直径1.5~1.0mのほぼ正円形の落ち込み6か所が認められた。この落ち込み土は地山土の掘り返し土を再び埋め戻したもので、地山土よりやや暗色で若干の木炭片を含む。そして各々ほぼ中央付近に小礫が認められるものが多い。南寄りの傾斜下方では盛土のためその掘り方は不鮮明である。

このような落ち込みの様相は、正円形桶状の棺を埋葬した近世土葬の場合と同様であると判断されたので、掘り方底に至る発掘は行わなかった。

また、上面にあった礫は隣接地にある塚状の集石と同質の破片であることから、この墓地にあった礫石や墓石を隣接地に移してまとめ、その後を畠地に拓いたものと思われる。

なお、集石部の付近には落葉の下に方形に配置した礫石が4か所に認められることから、調査地点と一連の墓地であり、本來幅約10m、長さ20mの墓域であることが判った。

集められた石材は大部分が付近に見られる山石であるが、その中に凝灰岩質(キマチ石)の五輪塔片(1基以上分か)がある。五輪塔は笠(火輪)を欠くが、推定全高70cmの中形であり宝珠(空風輪)頂部の尖りが明確で、江戸時代前期の製作と思われる。



図5 大石原古墓地形図

まとめ：調査した畠地部分は、隣接する集石塚や方形に配置した礎石の残る旧墓地と一連の墓域であった。

川端を通る旧道からの石段脇に石燈籠や手洗石と石段造営の碑があり、それぞれ明和8(1771)寛政4(1792)に鉄師であった石原氏や付近の人々の寄進名が見られる。この石段を登りつめると調査した墓地のあたりに達するものと思われるが、県道等で途中が破損しておりこれ以上の関係は明らかにすることはできなかった。因みに大石原の小字地名はこの石原氏によるものと伝えられている。

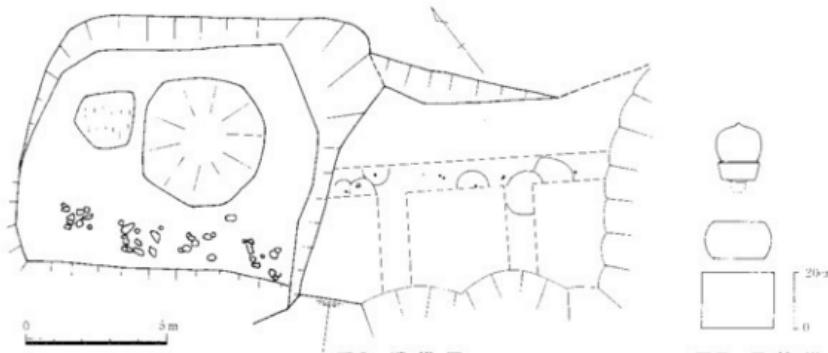


図6 遺構図

図7 五輪塔

## 2. 段たたら跡

立地と環境：下久野字段にあり、北に開く狭い谷間の入口部西側の段状地形に立地する。

19×13mほどの旧水田で、谷川はこの東縁を大きく曲って北に流れている。

分布図等に示すように、この久野地区では小谷地形の入口部付近にはそれぞれ鉄滓が散布し、中小のたたら跡が散在する。この段たたら跡もその一つである。

たまたまここは休耕作中であり、しかも耕土直下に焼土面が広く残存しているとのことから、たたらの様式や規模等を知る目的で部分的な試掘調査を行った。

遺構の概要：試掘面積は炉心部を中心には平坦面の17%にあたる41m<sup>2</sup>について行った。

検出した遺構面は、操業当時の面が炉心部付近でよく残っており、中心である本床部分が耕地化に伴ってわずか20cm程度削り去られていると思われた。

地下の構造については、中心点から西へ約2m、深さ1.1m(本床釣り部)まで小トレンチを掘って観察した。さらにその下にも構造があるが、トレンチが狭小なことと、遺構保存の意味でこれ以上の発掘は行わなかった。

主な構造についてみると次のようである。

堀り方は上端で幅3.6m、長さ7.2m、深さは下底部未発掘につき不明。中心となる本床は上端幅85cm、長さ約4m、深さ1.2m（推定）で、下方から炭灰を詰めて中間に薄い粘土ベースを張り、さらにその上にも炭灰を充填している。本床壁面は小舟内壁と共に通じ、元釜土のみの積み上げで、剥落部を補修した所も見受けられる。

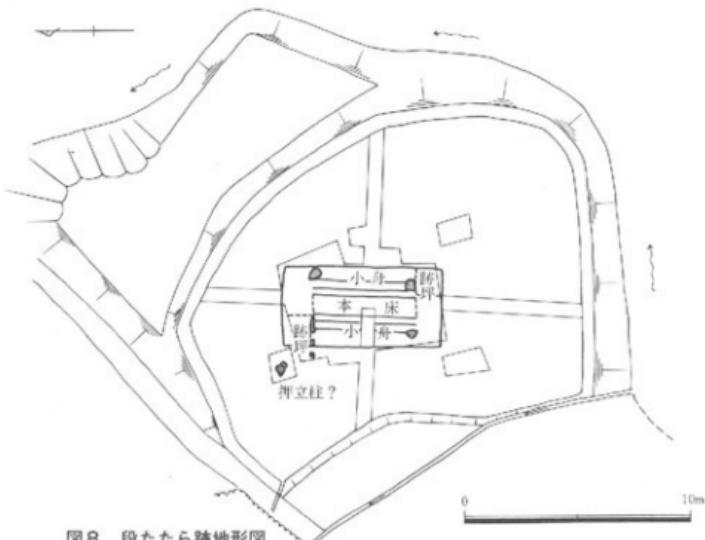


図8 段たたら跡地形図

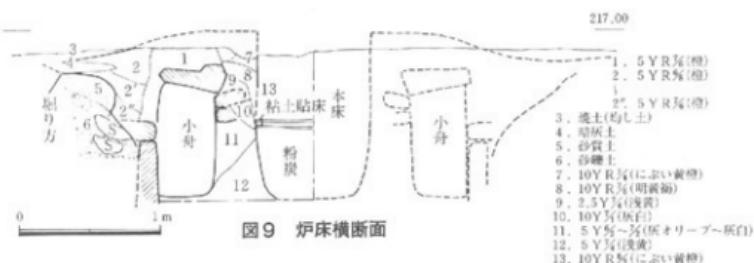


図9 炉床横断面

小舟部は幅40cm、高さ80cmと狭く高いもので、長さ4.5mを測る。外壁下端には石垣が並ぶが上端まで達せず、内外壁とも上端は中小の石を並べてそれを支えに板状の天井石を渡しかけている。末端部分は未調査であるが、焚口部と思われる大きく厚い天井石が用いてあり、他端は小石数個を嵌込んで煙口を閉塞しているようだ。跡坪部分は南北とも1.2~1.5m程度で狭い。

なお、小舟・本床構造より下方の底部構造はどうなっているか不明である。

まとめ：段たたら跡は小舟構造を有する近世高殿様式ではあるが、その掘り方や本床釣り各部の法量が小さく、初期的な手法である。高殿建屋については未調査であるが、大型の敷地ではない。これらから高殿様式の初期段階の遺構と推察される。

理学的年代測定は島根大学へ依頼して下記の結果を得た。

西暦1720±15年

即ち、宝永～享保年中にあたり、高殿たたらの前期段階のころである。

### III. 主な遺跡

#### 1. 縄文・弥生時代

久野地内においてはこの時代の遺跡はついに発見できなかった。縄文時代遺跡の立地にふさわしい環境でありながら全く見当らないのは、おそらく近世に盛行した砂鉄採取の鉄穴流しにより消滅したものかとも思われる。

このような中にあって上久野字乗越の墓地内にたまたま1点の石器が混入して祠られていた。扁平円形の凹石で凹部のほかに磨面と敲打部分があり、磨石や叩石としても用いられている。大まかに縄文時代後期頃のものであろう。この付近は大規模な鉄穴流しの行われたところであり、おそらくその際に採取されたものであろう。最も古い貴重な1点の資料である。

弥生時代については何らの手がかりもない。

#### 2. 古墳・奈良時代

かつて土製支脚が2点採取されたことがある。1点は昭和39年水害時に下久野字大台で、もう1点は圃場整備工事中に下久野字下梶屋（落合茂重氏宅前付近）で採取された。出土品は見ていない。また下久野字段の丘陵上の畠からは時折土器が出土し、そのうち1点は土師器の低脚壺であった。これらはいずれも古墳時代中～後期頃と思われる。また須恵器の破片が字下梶屋や字叶垣の畠地から採取されている。奈良時代頃の居住区域を思わせる。

下久野八幡宮の裏山に入った丘陵上には直径8～10m程度のマウンドが17基以上列をな

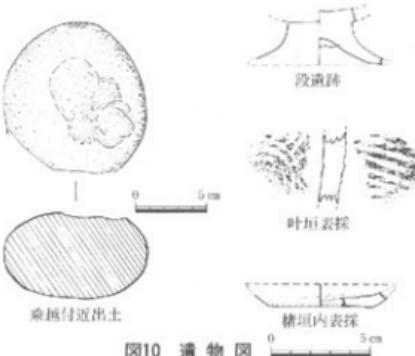


図10 遺物図

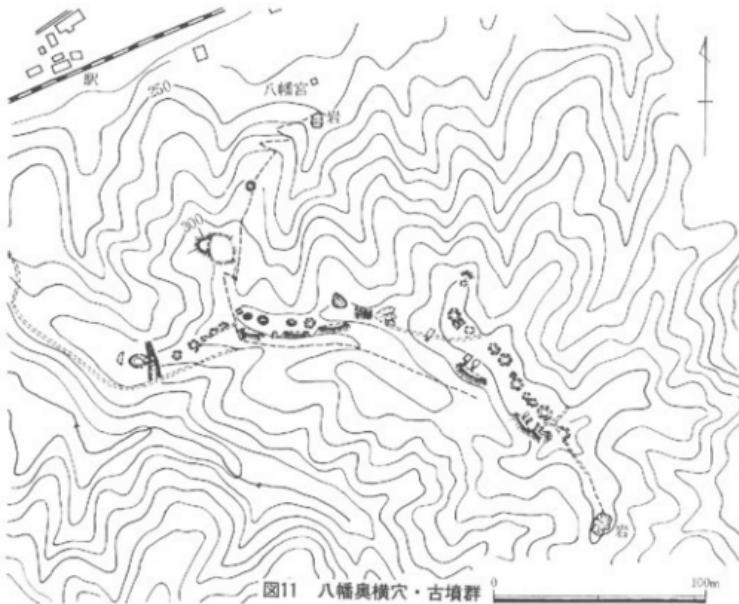


図11 八幡奥横穴・古墳群

している。またこの南斜面わずかに下った丘腹には、狭長なテラス状加工段があってそこには横穴墓が営まれていた。開口している横穴は1穴のみであるが、隣接して陥没部が認められることから2群5穴は推定された。このほかにもテラス状地形や陥没地点があり、さらにその数が多いものと思われる。

開口している1穴についてみると、玄室は $1.5 \times 3\text{ m}$ 長方形、高さ $1.43\text{ m}$ 断面三角形の雲南地方で普通に見られる形状であるが、大型であり羨道は片袖式である。

かって土器が出土したと伝えられるが現存しない。

なお稜線上的マウンドは、これらの横穴に対応するものかとも思われるが明確ではない。従って遺跡としてはマウンドは古墳として、横穴と区別した。さらに付記すると、八幡宮後背の注連を巡らせた巨岩は古くはこの宮の御神体であったと思われるが、これら一連の古墳群への入口の標識と考えることも可能である。

下久野字寺谷尻古墳は丘陵先端にあたる突出台地上にあり、畠地の中央に破損した石室が露呈している。明治初年頃鉄剣が出土したとの伝えもある。石室は約 $3 \times 5\text{ m}$ (外寸法)で、門柱石2本を有する横穴式石室である。封土はすべて失われているため墳丘については不明である。

以上の横穴や古墳は古墳時代後期に営まれたもので、下久野中心部には集落があったことが窺われる。

### 3. 中世の城砦など

久野地内で古くより知られていた城跡は上久野の生山（鎌倉）城跡と下久野の殿居敷であったが、このほか下久野の通称高丸の頂部にも城郭があり、対峙する位置の中垣内上にも規模の大きい砦が所在した。またこれらの近くにはそれぞれ物見郭かと思われる砦が設けられている。

#### 1) 生山城跡<sup>いきやま</sup>

巨大な岩頭を頂上とする標高494mの生山山頂から四方への尾根上に縄張りした城跡で、主郭部の最頂部と第2郭はいずれも岩壁の上を郭とし、第3郭は南～東尾根への基点となる大きな郭で前端の切岸は4～5mを測る。

前面である南郭群は大堀切りを経て削り出し土壘のある郭から小郭3段を下る。最先端は巨大な岩頭で、下方久野川に至るまで絶壁に近く、直下約30mの岩底に生山櫻現社がある。また先端近く東側斜面には2条の豊堀を落している。これが正面の構えである。

第3郭から帯曲輪を経て西尾根の郭群は比較的広い4段の郭から成る。さらに尾根を下って小さな堀切りを設けて南西の鎌倉谷へ豊堀1条を落し、久野川下流方向への備えとしている。

東へ長く延びる尾根には広大な基部郭（第4郭）から落差9mの切岸と堀切りを経て郭が6段続き、さらに南へ曲りながら6段の小郭が「新馬場」方向へ下る。またこの尾根と正面の南郭群との間の谷頭には井戸跡があり、搦手郭から通路が認められる。麓の居宅区域（表・屋敷・花細・垣内等）からの登り路は「かりや谷」の奥から搦手郭の北側を回って東基部の第4郭へ登る。

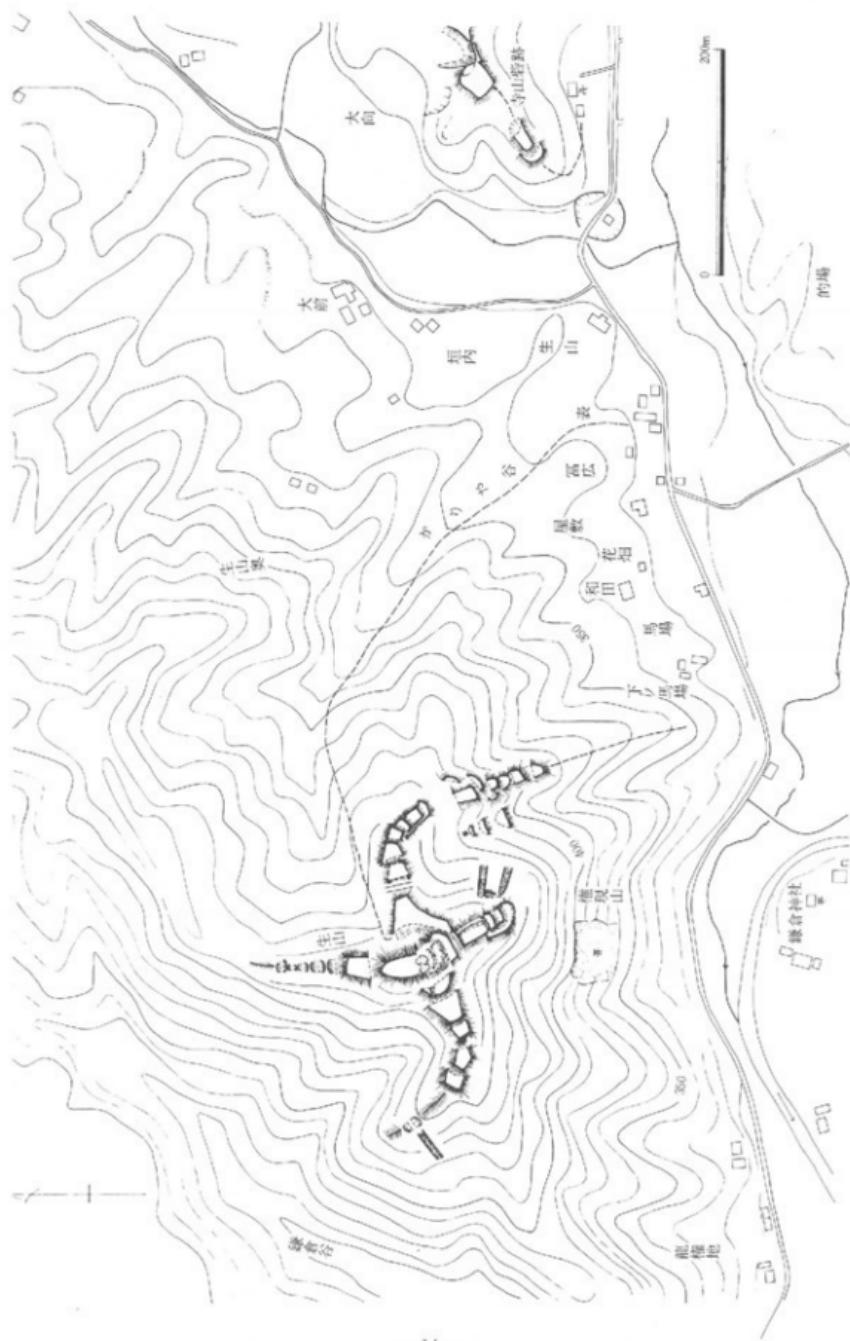
後方尾根続には頂郭からなだらかに下ったところに広い方形の郭（第5郭）をおき、それから北への瘠尾根は5段連続の堀切りで遮断している。

また麓の「表」に続く「字生山」（かつて学校のあった所）も麓の砦であったと思われるが、掘削されて地形が大きく変わっており、今となっては判然としない。

付属する砦として大谷川を挟んで東の丘陵上（總覺寺の裏山）には寺山砦があり、物見郭など数段の郭が造られている。しかしこれも裏手にあたる北側は鉄穴流しで大きく抉り去られて状況は不明である。

このように生山城郭は絶壁の山頂に設営した城で、専ら戦うことを目的とした鎌倉末～室町前期に始まるもので、戦国期まで手入れされたものと思われる。

図12 生山城跡拡張図



## 2) 高丸城跡

仁多郡から樋の谷を経て下久野に下る県道東側の通称高丸山の山頂付近に設けた城郭で、頂部の主郭部と西へ短く張り出す支尾根、及び北へ延びて下久野字段に至る長い尾根上に占地する。

登路は専ら字段からの尾根筋で、狭小な小曲輪7段がところどころにあり、木戸跡と思われる部位も2か所ある。

登り詰めた頂部は広い平坦部で、中心となる広い郭3面と西に下る2段の郭が主となり、南に面して腰曲輪等が5段数えられる。南へ下る脊尾根は五重の堀切りとその先端から東西に落とす豎堀りによって遮断している。西へは緩やかな稜線を下った先端部に堀切りや横堀りを不揃いに配置した阻塞で、先端から南下方の峠道に対して堅堀りを1条落としている。

これらの構成は南方の仁多郡方面に対する防備を主とするもので、特に下方を通過する樋の谷越しの位置に対処する構えであろう。戦国後半期の支城的なものであろうか。

## 3) 中垣内上砦跡

下久野字中垣内の上に張り出す支丘陵上に設けた砦跡で南と東への2つの尾根上に縄張りを行っている。堀切りや土壘等はみられず、尾根上のわずかに高まる頂部から東への尾根は岩頭の間を下って小僧谷の通路を見下ろす尾根上に5段の削平段を配置し、南尾根は突端頂部の高まりから下りながら9段の大小削平段が断続し、下久野集落を見下ろしている。登路は明確でないが字樋垣内からと思われる。



図13 高丸城跡

この構成は頂部を物見とした砦である。

またこれより北約100mの別の支尾根に「桜城」の地名で旧畠地があり、これも峰道に面した位置であり相互に関連するものかもしれない。

#### 4) 戸屋ヶ崎砦跡

小僧谷を挟んで中垣内蔵に対応する丘陵上にあり、3~4面の削平地が残って

いる。西及び南端は鉄穴流しで大きく削り去られて旧状は不明である。南端には「内ノ代」、「外ノ代」の地名がみられる。また最頂部には大山権現が祠られている。

この砦は川井峠越しの道を挟んで中垣内上砦と呼應しながら監視するためのものと思われる。

#### 5) 殿居敷館跡

栄福寺後背の広い台地上で現況は畠地である。寺はのちに移って来たもので、この寺城も含む構成であったろう。約70×150mのほとんど平坦な台地上を幅9m、深さは現状で2mもある大空堀りで二分し、西の先端方向へは段状に下っていたが現在は此所が寺域となっている。また北西側面は鉄道によって削られ現在は帯曲輪が2段ほど残っている。伝承等によると永正年中馬田越中守或は久野肥後守直経の居所という。室町後~末期の居館跡である。

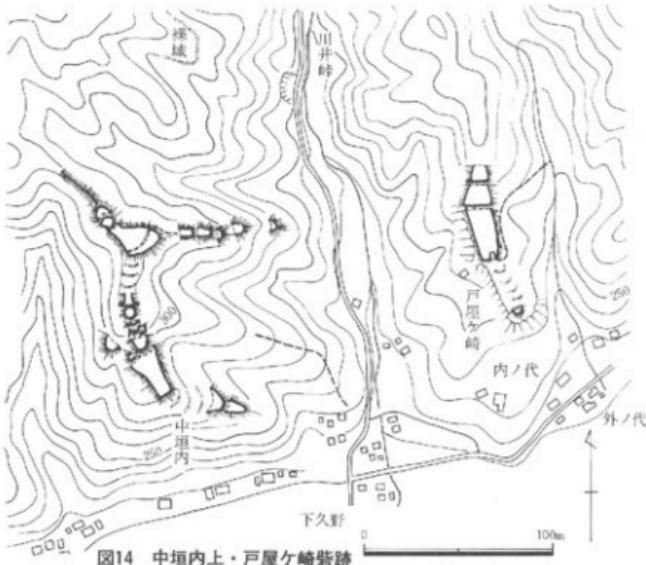


図14 中垣内上・戸屋ヶ崎砦跡



図15 殿居敷館跡

## 6) 古墓について

城砦の麓地帯には古墓が散在することが多いが、五輪塔・宝鏡印塔に着目してみると中世と思われるものは全く見当らなかった。近世初～前期と思われる五輪塔片もわずかで、上久野では大石原・乗越に、下久野では森・国魂神社に、宝鏡印塔は下久野段にそれぞれわずかに認められた。

## 4. 製鉄関係

久野地区は近世たら製鉄の盛行した地域であり、大正年間まで操業された所でもある。鉄滓の散布もほぼ全域にわたるが、製錬・鍛冶があり、また炭窯もある。

製鉄や鉄穴流し・鉄山等に関する記録や伝承も数多く残っている。久野地区のたら経営者については、江戸時代以降ほぼ辿ることができる。(「久野のあし音」より)

元禄・宝永頃 (1688～1710)	長沢平右エ門	長谷で製鉄
宝曆・明和頃 (1751～1771)	石原与右エ門	上久野高橋で製鉄
寛政年間 (1789～1800)	石原 市郎太	井谷で製鉄
文政11年 (1828)	石原市左エ門	御仕法鉋となる
明治21年 (1888)	福間喜代三郎	石原衛造より井谷鉋買取る
明治30年代 (1897～1907)	タ	大林へ鉋を移す
大正9年 (1920)	タ	大林鉋廃業する

### 1) 大林製鉄所跡 (扉写真)

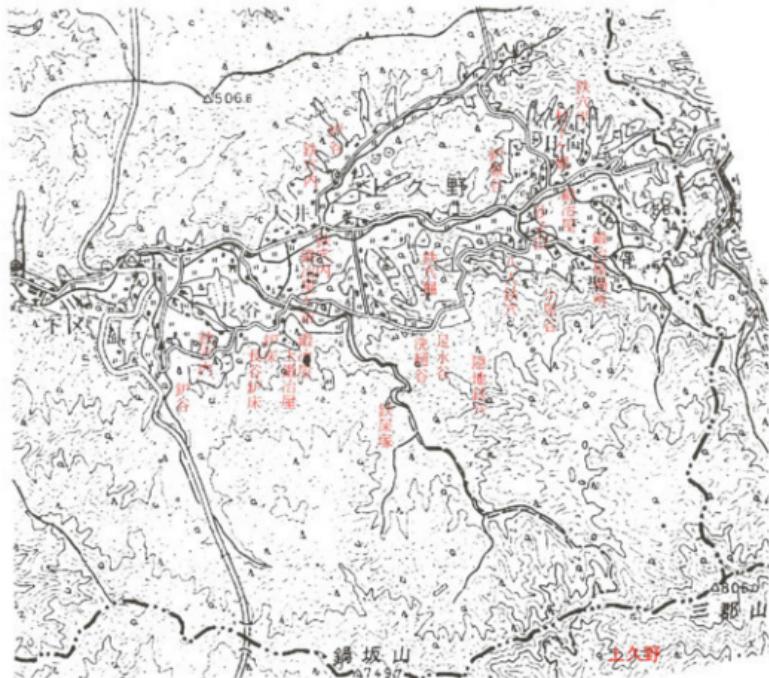
明治19年から大正7年まで操業した終末期のたら跡で、現福間氏宅はその元小屋であり、明治37年撮影の写真のほか関係書類等も残されている。高殿・大鋼場・長屋等の跡も歴然としていて史料価値の高い遺構である。

### 2) 近世高殿たら跡

井谷たら跡は石原氏が近世末～明治まで操業したところで、文書資料等も散見される。小井谷たら跡はその谷を遡った所にあってより以前の時期であろう。長谷では寛政頃を中心に広い範囲に複数のたらと鍛冶場があったようだが、土地改良等で地点の特定は難しい。谷奥に鉄屎塚たら跡があり造林地内に軒床構造の小舟が開口していて、高殿位置も良好に残っている。やや小型のようだ。

鉋たら跡は宅地付近の斜面に多量の鉄滓が見られるが、高殿の位置は特定できなかった。大仁農道の仁多町界に近い大槻たら跡は、谷合の広い敷地で金屋子神木もあり

図16 製鉄関連小字地名分布図



奉納した初銃も現存する。同じ谷の入口近く成林たたら跡は、谷川に臨む台地上の炉床あたりは開窓で破損しているが斜面の鉄岸は夥しい。下久野叶原のたたら跡は砂防ダムにより破損している。段たたら跡は試掘を行い既に別項に記した。

このように久野地内は各地点において近世の大型たたら跡がみられる。共通する特徴として、前方谷川又は深い谷間に多量の排滓を行っていること、炉床又はその推定部は概ね3a以上の平坦面で高乾であり、後背に深山を控える。また山越えで仁多郡との関連が多いところが多い。

### 3) 野だたら跡等

上久野字中籠の畠地には焼土面（炉心部）の残っているか所が複数あり、排滓中の炉壁片には薺葉の混入が著しく、中世的な手法で最も古いものであろう。

神ノ前たたら跡もこれに近い様相であるが、大部分が道路によって失われている。このほか山本宅後方の高橋たたら跡・廻ノ上製鉄跡の山寄り地点、遠日谷への峠にある遠目野たたら跡・山本宅裏の叶谷たたら跡・柄坂入口部の柄坂たたら跡・叶垣たたら跡なども、ほぼ同様に小型で簡易な構造の野だたら様式であろう。

なお、長谷奥原たたら跡はやや規模が大きいようであるが、中心部分が道路で失われており高殿たたらとも野だたらとも判別しかねる。一ノ瀬たたら跡も鉄滓が多いが炉心地点は不明である。

これらの野だたら様式は地下に巨大な構造を造らないもので、一般的に地下に床釣り構造の重厚な高殿たたらに先行するタイプでありより古いとされるが、時代の下る小規模経営もあって、時代の特定には慎重を期する必要がある。

### 4) 錫冶跡

ここに挙げる錫冶跡はたたらでできた銑鉄を可錫鉄（銅）に精練する一次加工の錫冶（大錫冶）のものであって、小錫冶（野錫冶）ではない。従ってたたらに付設される場合も多い。

上久野廻ノ上製鉄跡は川端寄りの錫冶跡（煙）で約60mの山寄り部にある野だたら跡と対になるものであろう。近世大型たたらに付属するものとしては、長谷たたら跡付近に散在する複数の錫冶地名が代表的であるが、耕地整備等により明確な地点は特定し難い。桜木原錫冶跡は竹林中に石垣を積んだ2段の職場跡があり、その前方に錫冶津が散乱している。保存状況は良いようだ。

下久野では叶原製鉄跡の一群で、たたら跡より下方の落合宅前の水田（下梶屋）に錫冶

跡があったと推定されるが、圓場整備によって遺構は破損しているようだ。付近には関係地名が他にもあり、複数か所と思われる。

### 5) 炭窯跡

製鉄地帯であることから地区内山中には多くの炭窯がある。これらのうち山腹に横穴を掘り抜いて窯体とした穴窯遺構2点があった。八幡宮脇の丘陵上の才ケ市炭窯跡と畠ヶ平である。前者は掘り抜いて地表に開口する煙口が3か所あり、前庭面には粉炭層が埋没している。窯体は開口していないが推定長は11m位であり、3本の煙口であることから大炭(たら用木炭)を生産したものと思われる極く希少な事例。伝承なく時代は不明。

## 5. その他の

上久野は能義郡広瀬町奥出原と焼を接しており、江戸時代には広瀬藩との藩境であった。このため松江藩はここに番所を設置していた。上久野字大田旧番所がその地点である。現況は県道とそれを挟んで上下とも水田であり旧地形はほとんど改変されている。番所役人であった長野氏の温情話などが伝えられている。

小字地名一覧表  
大字上久野

地図番号	小字地名	地図番号	小字地名
1	植ヶ原、植ヶ原東	14	木挽道ノ谷、大谷原南平
2	袋尻、新宅、川原、乗木越	15	木挽南平、大根、木挽谷日向平奥、木挽谷日向平下モ、 伊谷、木挽谷尻東平、伊谷尻
3	牛ヶ谷、牛ヶ谷東平、牛ヶ谷西平	16	東越、寺中、堀ノ内、後鉄穴内、鉄穴内、平田、平田上、 反田、後反田、後反田上、反田下タ、反田尻、麻畑、 寺中南平、寺中奥
4	大石原、下モ大石原、戸屋、六部原、高橋	17	川端、古輪、中型敷、清水井手下、清水、屋敷、屋敷家ノ上
5	化生谷尻西平、化生谷、化生谷尻東平、大東林	18	坪ノ内、引地、越崎、一久保、越崎東平、前田、梅ノ奥尻
6	稗畠、樹水、樹水下ノ谷、樹水吳、堂ノ上、稗畠尻西平、 奥稗畠西平、稗畠奥、稗畠東平、和名坪、稗畠尻、奥稗畠、 稗畠尻東平	19	荒神谷、荒神谷東平、荒神跡、荒神堀、梅ノ奥尻
7	山木、漁穫谷尻東平、高橋、高橋西平	20	梅ノ奥家ノ後、鉄穴平、平ノ堀内、梅ノ奥尻、梅ノ奥道下タ
8	樋ノ口、千葉ヶ堀、鎌倉尻、閑ノ上、六郎原	21	中村、中層、堀潤、豪、十王堂、御田、堂ノ後、下モ小谷、 篠堀、平床、下長谷ノ上モ小谷、下モ小谷尻
9	松ノ木原、外原、向田、袋尻、高垣、小畠、川原林、小畠東平		能權地、謙倉尻、鎌倉、引木、興イコ、鎌倉尻西平、鎌倉谷
10	鉄穴内、反田、福塚、高垣原		道ノ奥、道、上道、下モ堀、剣ノ空、風呂屋、権現山、生山
11	梨子木田、外原、竹ノ下、水落落、原ヶ市、福塚		道ノ奥西平、道東平、大堀、大堀前田、大堀下モ、大堀ノ上
12	平、反、古輪、込、山田		
13	大谷原西平、大谷原井手上、大谷原、成林、道ノ谷西平		

大泡後、人頭前、孫山、大羅ノ空	46	羅保谷、羅保谷裏、ヲホ谷西平、ヲホ谷東平、松田家ノ下モ 松田、松田奥、クヨシカ谷、切古ケ谷裏、クヨシカ谷尻、 小堀、ヲホ谷尻
新次郎作、小吹ヶ、宮原、宮本、小神田、宮ノ船、 宮ノ鍋道下、鎌倉、代官原、宮ノ前、宮ノ後	47	大谷北平、大谷、桜ノ木島、桜ノ木上ミノ田平、大谷鐵ケ廻 桜ノ木、桜ヶ谷、桜ヶ谷尻、細田イゴ下モ田平、 鐵ケ廻尻田平、鐵ケ廻尻、小堀田平、大谷平
上ミ小谷、上ミ小谷尻、上ミ小谷尻東平、富ノ上、富ノ向、 上ミ小谷東平	48	才ノ峰、才ノ峰田平、大谷、大谷田平、吉ケ谷、才ノ峰尻、 大谷尻
小原、松ノ前、恩崎井手上、峰、原、新原、釜原、 釜屋小丸山、風禹附	49	大谷奥、大谷、七ドノ谷、才ノ峰尾
代官家田、西ケ平、下モ長谷、姫ヶ坪	50	大谷、大谷南平、下モ大谷、中大谷、奥大谷、下ノ瀬、 大谷奥、上ミノ側、家ノ奥
切明戸、切明奥西平、切明奥、切明奥東平、谷ノ谷、 田辺、田ノ上、仁助山、切明奥東平	51	向廻、向廻東平、橋詰南平、橋詰、的場、清水、寺中、常久 當久、井ノ奥西平、橋詰南平下タ
大神田、森山、祖父田、崩地、石田、轟ノ内、長谷、三崎原	52	上坂田、上坂田上、上坂田隣上、井垣廻、清堂寺、川端、寺山、 寺上、寺坂、寺坂小丸山、高田小丸山西平、橋ノ口、寺下平
轟治屋、長谷、轟治屋西平、轟治屋西平、銀治屋裏、谷口、 轟治屋北平、銀治屋東平	53	井ノ奥、井ノ奥清水、新屋敷上、新屋敷、井ノ奥西平、 井ノ奥田ノ下
鉢所、及谷御家、及谷御家井手上、長谷大黒山、 上轟治屋四平、上轟治屋、上轟治屋東平、岩相、長谷、 小轟治屋、上轟治屋裏、井手端	54	沈括谷西平、沈括谷東平、沈括谷尻、井ノ奥、足水谷西平、 臨地鉄穴、井ノ奥北平
井手下、奥原西平井手下、奥原井手上、奥原川端、奥原、 川端、奥原井手下、奥山	55	井ノ胸、下井ノ奥、澤田、沢田南平、沢田尻、常久、 惣次郎谷、常久家ノ上、前田、惣次郎谷東平
花蓮山、花蓮道下タ、奥山、奥原、田中、田中井手下、 寄合棚、種屋町、祇園	56	アミタ堀、稲田、新屋、灘ケ原、新屋家ノ上、惣次郎谷、 大成、大成前、灘ケ原道下、空ヶ木、上細田
鉢榮塚、鳥井谷、一ノ谷、桑木廻、自在谷、三都、 小野呂南平、大野呂、小野呂北平、長谷	57	下瀧、下瀧奥、鉢穴廻、シヘリ堀、灘ケ原
忍崎、初ヶ坪、柳ヶ坪上、山樹、山根家ノ後、的場、後の場	58	灘ノ谷、釜ノ谷、釜ノ谷尻、庄次ヶ谷、灘ノ谷北平
前田、土井後、藏本、藤崎、松本、山崎家ノ後、山崎、小原 峰、後小原、サワリ、中島	59	平向、清水小谷東平、和田、八人鉄穴、清水、 八人鉄穴上、清水尻
前田、馬場、下モ馬場、和田、大引、和田新馬場、 和田家ノ上、和田家ノ前、家ノ上	60	高峰、奥原、高木寺、高木
前田、櫛敷、表、次郎御衛第、廣宮、宮田、川バタ	61	田中堀、西、四大田、四大成
菊屋谷奥、菊屋谷東平、菊屋谷西平、菊屋谷尻西平、菊屋谷 小丸山、櫛敷、家ノ上、上モ屢、堂ノ上、堂ノ隣、花畠、生山 堂ノ奥、生山井手下、菊屋谷東平林下タ、菊屋谷東平	62	大田、前大田、上隣層、前隣層、井手下タ
生山奥、生山、原ノ内、張尻、池ノ内、道下タ	63	的場、的場中山、的場中山南、的場死神跡、的場奥東北、 竹添、小屋谷、小屋谷尻、小屋ノ谷の場裏共、小屋ノ谷西平 竹ノ内、羅、羅ノ上及の場廻、水無シ
袋尻、三合前井、向田、轟治屋、大向、三合前、二合前東平 二合前北平、上リ廻、三合前家ノ下モ、三合前家ノ空、袋尻 大向小丸山東平、三合前奥	64	春木、下前、春石ノ内桃木、春石、大林
上小堀、小堀、六内、大前、小堀小丸山	65	春石ノ内境後、平ヶ峰
ドウドウ、上小堀、廻、カ、堀、惣次郎谷、鉢穴内、岩カイ	66	コハ松
梅ノ木田、梅ノ木田空、梅ノ木田頭、井手ノ空	67	タラタク、上地木、春木田、堀、春木
伊谷、折原、山神谷、斜谷奥折原、鉢谷奥山神谷	68	小吹ヶ、土地木、畑廻、空ヶ田、上地木頭、姑田、 姑田北平、座頭ケ市、瀬野、瀬堂
神ノ前、家ノ前、伊谷、神ノ前川壁	69	日焼、日焼空、日焼原、油免、中屢、下中屢、竹添、家ノ前 柳屋、柳川、前川尻、竹ノ内、田井中、小川、カジヤ、 柿木田、土地木、家ノ前鉢治屋場所、大田
澤田尻、澤田、赤木イヅ、ケツタ、桜ノ木、極ノ木向、 釜ノ谷、四社場谷西平、四社場谷東平、舞込、四鉢場谷尻 宝祖坂尻、大谷、宝祖坂尻西平、ホウゾ坂尻東平、ホウゾ坂 上ケツタ、大谷宝祖坂尻、下ケツタ、大谷南平、四鉢場谷	70	八糸堀、轟治屋、新兵衛ケ市、八人烟、清水尻、神田堀、 熊田、羽毛ノ前

71	落合、和ケ市、松ノ前、上ヶ市、川原、山崎、堂ノ跡、東ヶ廻東平、東ヶ廻西平、鉄穴平、ホウシカ跡、堤ヶ内、新堀、上ヶ市、大田旧番所、小カジヤ	78	平田、植ヶ前、村下ヶ廻、大田、村下ヶ廻東平
72	妙子田、古輪、新屋敷、奥砂子田、古場、新屋	79	長澤、ケンタ、寄合、寄合西平、寄合荒神跡
73	折戸ヶ廻、演子、演子頭、梨子成、日焼、日焼空、座頭ヶ市	80	賀堀、賀堀北平、賀堀南平、宝祖谷、宝祖坂尻、松山、竹ノ谷、竹ノ谷東平、竹ノ谷南平、中ノ瀬、中ノ瀬西平、下モ堀西平、下え堀
74	向堀、漁登、漁登尻南平、漁登中山、コハ松漁	81	燒堀、宝根谷、向田、前田、宝祖坂、小豆谷、柳木谷、
75	月田ヶ廻、月田ヶ廻奥、林場、連場、漢子、奥漢子、漢子北平、漢子頭、漢子小谷南平	82	釜ノ谷、小豆谷尻、柳木谷尻、奥宝祖谷、炉原谷平、平小丸山、平山根、平ノ上、平上谷、平下谷、燒ケ谷尻、前田、燒ケ谷東平、燒ケ谷西平
76	才ノ跡、浜戸ヶ廻、三崎谷、三崎谷東平、月田ヶ廻		
77	池谷、池谷東平、池谷西平、浪谷小丸山、池谷房東平、東ヶ廻		

## 大字下久野

1	大雄谷、猪谷、小猪谷、場ヶ原、猪谷尻	24	諏訪原
2	大平、紙屋大平、紙屋サコ、紙屋奥、鍋ヶ谷、紙屋川原、紙屋、紙屋ウチ、中ウチ	25	諏訪原、上モ井手谷、井手谷尻
3	三助田、小坂、叶垣堵、叶垣、家ノ屋、五反田、楓手添、瓣田、堵ノ奥、中堀内、藏寶田、藏師堀、原田、カシ田、猪垣内、瓣田	26	トウメ、新屋
4	原田、椿堀内前、大歳、下大歳、椿堀内沢、椿堀内、上堀内椿堀内サコ、森田	27	中越、中越木添、一本松、出店、出店前、吉ヶ原
5	小僧谷、百原、浅冢、輝城、輝城尻、ツエタケ、疊岩、・松松、西河用谷、小僧谷西平	28	栗ノ木堀、吉ヶ原、大久保田、吉ヶ原川原
6	小僧谷奥西平、片尾敷、川井崎、一型松、小僧谷奥東平、荒田、片尾敷尻、荒田尻、才ノ跡	29	吉ヶ原向、カシ木原、カシ木原道下タ、カシ木原井手上ヘ、カシ木原井手下タ、カシ木原道上、カシ木原道上サコ
7	井手下タ、鶴田、小坂リ、下梅ノ木田、梅ノ木田、叶廻、作郡、外ノ代、内ノ代、客田、カーラ、オカシ尻、戸塚ヶ崎	30	一ノ七隻、一ノ七、大ユ原、川堀、一ノ七川端、一ノ七道下タ井谷、井谷尻、井谷尻道上ヘ、井谷糸ノ上ミ、井谷ういこけ井谷尻道下タ、井谷糸ノ向、小井谷、新田原、新田原道下タ井谷糸
8	小僧谷鉄穴内、小僧谷、鉄穴内尻、小僧谷東平、鉄穴内、叶廻	31	折渡り、下モ井手ノ谷、向原井手山、向原、下モ井手谷尻、向原池ノ谷、向原原谷、井手谷澤田、井手谷尻
9	高畔、才カシ、下土井、藏ノ前、上土井	32	樺原井手口、樺原井手下タ、木成向、鳥井田、伸田、四百武三久保田、三久保田尻ケ坪、大久保田、樺原室田、樺原井手上ソリ田、才ケ市、寺田、八幡、宮ノ瀬、ヨシ田、藏室田川端藏室田、枝原、枝原ウカ、枝原前田、才ケ市きこ、樺原川端油田、油丹奥、八幡田、鐵原敷、柿本田、寺ノ前、人黒大フケ、寺ノ向、大クロ、鶴有門田、かりや脇、かりや川堀、深岸、寺ノ前道下タ、延ノ内、殿ノ奥、七欽場、勘右エ門田奥、澤田、かがら、寺ノ奥、寺三右エ門田、大クロ八幡田
10	上土井、藏ノ前、明見	33	早稲田、六鶴場、仲ノ奥、蛇ノウズ、仲家ノ上ミ、田仲、仲、仲家ノ谷、仲家ノ下モ、西、仲田、猪田、西ノ瀬、西ヶ平、段、井手頭、仲場、寺谷上堀、宝谷下モ、宝谷、加茂ノ宮、寺谷、小谷、叶原奥、叶原、寺谷尻坪、寺谷尻、寺谷尻、猪田川端上桜原、下桜原、角田、下桜原ウズ、上桜原、下桜原前、兼田八幡田、門連田、糸田、假屋、宝谷田、假屋川端、橋板構谷君ヶ谷尻、君ヶ谷、橋板、控谷、橋ノ木谷、烟ケ平、向場ケ原道ノ上ヘ、美七、美土上、美九、美土峰ノ下タ、美土川端美土道下タ、美土向、美土中新田、美土中川原上ヘ、中川旗札場、札場前、桂木尻、美土峰ノ向、屏風岩、美土山ノ神谷美土西平
11	明見谷、明見谷東平、明見谷淺井鳥原	34	
12	宮ノ崎、下藏寶、藏寶ウチ、道下タ、藏寶	35	
13	大塙、大塙ウチ、道上	36	
14	叶谷、叶谷大塙	37	
15	森、森下モ、森下道上、中原道下、中原道上下モ、紫ノ木谷中原、家ノ後、中堀上ミ、系谷尻		
16	糸谷城道下、糸谷尻、小司原道上、糸谷、小糸谷尻、古金イコ、小糸谷井田坂、小糸谷奥、火糸谷		
17	糸谷尻、糸谷、糸谷場ノ子、糸谷長烟、大糸谷、大糸谷田原清久山		
18	小司原道下、下司原、瀧ヶ堀、クルミサコ		
19	クルミサコ、仲田尻ケ坪、仲田尻ノ坪、仲田、段原口ノ坪		
20	仲田尻ノ坪、仲田、段原口ノ坪、段原、クルミサコ、段原ウチ		
21	段原、後平、下段原		
22	相賀谷尻、明賀谷、増堀、鉄堀		
23	小原、戸井ケ谷		

## 付 編

### 段たら跡の地磁気年代について

島根大学理学部 時枝克安、伊藤晴明

#### 1. 年式測定の仕組

地磁気は長短の周期をもつ変動成分を含んでいるが、その中には、時間が約10年以上たつと方向と強度に目立った偏倚が現れるような緩慢な変動があり、これを地磁気永年変化と呼んでいる。一方、窯や竈の例のように、粘土が加熱されると、焼土は土中の磁鉄鉱等を扭い手として熱残留磁気を帯びる。熱残留磁気の方向は、加熱時の地磁気の方向に一致し、再加熱されないかぎり安定であり数万年程度経過しても変化しない。もし、焼土が再加熱されて磁鉄鉱等のキュリー温度(575度C)以上になると、それ以前の残留磁気は完全に消滅し、その時の地磁気の方向に新しい残留磁気をもつようになる。つまり、須恵器窯のような高温加熱体の熱残留磁気は、最終焼成時の地磁気を正確に記憶していることになる。

これらの事実から、もし地磁気の方向と年代のグラフ(標準曲線)が分っているならば、これを「時計」の目盛として焼土の最終焼成年代を読み取ることになる。すなわち、地磁気の方向変化が時計の針の動きに相当し、焼成時の針の位置を熱残留磁気が記録する。標準曲線を求めるには、年代がよく分っている焼土から各時代の地磁気データを多数蓄積し、適当な短期間(～10年)の平均値をその時代(中央値)の標準点として定め次々と連ないでいく。幸い、日本では、広間によって西南日本における過去2,000年間の標準曲線<sup>1)</sup>が報告されているので、この方法が焼土隨伴遺跡の年代推定法として実用化されている。熱残留磁気による年代測定法の詳細については中島等による解説<sup>2)</sup>が参考になる。

#### 2. 遺跡の概要と年代測定用試料

段たら跡は島根県大東町下久野字段で発見された近世のたら跡である。分布調査によって表土が取り除かれ、非常に焼成度の高い小舟の天井が露出された。熱残留磁気測定用の試料として小舟天井全面から28個の定位試料を採取した。試料の採取方法には、柱状に整形した焼土に24×24×24mmの小プラスチックケースを被せて隙間を石膏で充填する仕方を用いた。また試料の方方位測定にはクリノコンパスを使用した。

#### 3. 測定結果

試料の残留磁気をスピナー磁力計で測定した。僅かに方向が逸れた2個のデータを除く

と、残留磁気の方向は非常によく揃う。揃ったデータの平均方向と誤差の目安となる数値を計算すると次のようなになる。

なお、 $\theta^{\circ}$  は次に述べる円錐の頂角の半分に相当し、小さいほど測定誤差が少ない。すなわち、P錐の頂点はステレオ投影図の中心に、軸は平均方向に沿い、頂角は測定結果の 95% を含むように選ぶ。Fisher の信頼度係数は大きいほど測定精度がよいことを示す。

### 残 留 磁 気 の 平 均 方 向

	I m (度)	D m (度E)	K	$\theta^{\circ}$ (度)	N
段たら跡	42.18	3.63	1,654	0.70	26

I m : 平均伏角、 D m : 平均偏角、 K : Fisher の信頼度係数

$\theta^{\circ}$  : 95% 誤差角、 N : 有効試料数、

#### 4. 考古地磁気年代推定

広岡 (1977) による 過去 2,000 年間の西南日本の地磁気年変化曲線上に残留磁気の平均方向に近い点を定め年代を読みとることによって地磁気年代が得られる。年代誤差についても 95% 誤差角を参考にして同様に求めることができる。このようにして得られた地磁気年代は次のようなになる。

段たら跡の地磁気年代 A. D. 1720±15

註1 広岡公夫(1977) 考古地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向、第四紀古地研究、15巻、200~203

2. 中島正志、夏原信義 考古地磁気年代推定法、考古学ライブラリー 9、ニューサイエンス社

「発掘調査より」



(基壇配石)

## 大石原古墓



(墓壇落込み)



石塔片(宝珠)



## 段たら跡

(中央横断トレンチ)



乗越付近出土（石器）



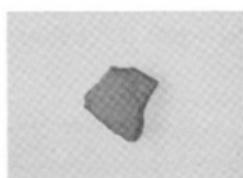
下梶屋遺跡



段出土（土師器）



大台遺跡



叶垣出土（須恵器）



(後方より)

寺谷尻古墳



(前方より)



八幡奥横穴・古墳群遠景



八幡奥横穴群 (左・1穴開口、上・2穴落込み)

国  
魂  
神  
社  
境  
内



乗  
越  
の  
五  
輪  
塔



森  
の  
五  
輪  
塔



(堀切り群)

生山城跡

最頂部の巔頭



南より



9月18日



堀切り



高丸城跡（上・遠景、下・堅堀り）



寺山砦跡



中垣内上砦跡 (遠景・巖頭防壁)



戸屋ヶ崎砦跡 (遠景・頂部・城戸跡)



殿居敷館跡 (北から・東から)



上久野番所跡



中鍵野たら跡



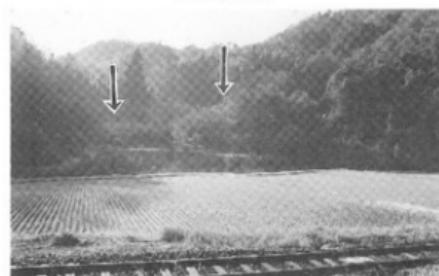
遠目野たら跡



叶谷たら跡



神ノ前たら跡



柄坂たら跡



高橋たら跡



小井谷たら跡



一ノ瀬たら跡

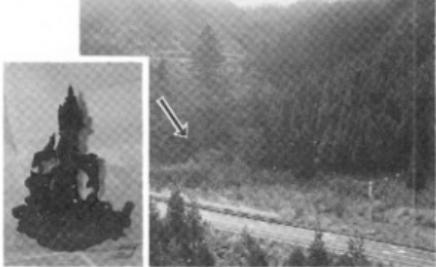


長谷たたら跡



(山内造立の地蔵尊・文化十二年)

長谷・鉄屎塚たたら跡(小舟開口)



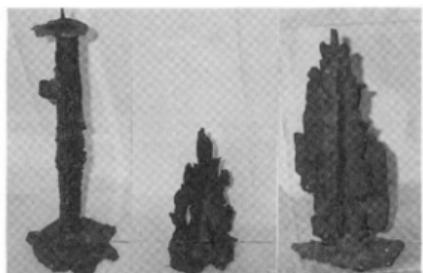
(奉納初銘)

大横たたら跡



廻ノ上製鐵跡

叶原製鐵跡



たたら山内遺品(燐台・初鉄 2点)



櫻木原鍛冶跡

文化財調査報告書  
大東町の遺跡Ⅳ  
—久野—

1992年3月

発行 大東町教育委員会  
島根県大原郡大東町大字大東1673-1

印刷 曾田印刷  
島根県大原郡大東町大字大東1017-1

